

6) 清蓮寺 (富田町4丁目)

浄土宗 本尊 阿弥陀如来

当初この地に念仏堂が建っていたが、地震で崩壊し、1584年(天正12年)に紅屋清水利重が、良閑和尚を招いて創建したと伝えられています。

紅屋は江戸時代前期に隆盛を極め、富田酒の酒元として栄華を誇り、以来この寺は、清水家の菩提寺となっている。

境内には樹齢400年といわれる老松があり、1694年(元禄7年)造営された本堂、庫裏、鐘楼堂、富田各地から集られた石仏などがある。また清水家の一族である入江若水の墓 漢文碑などがある。



入江若水の碑

漢詩人で漢詩集「西山樵唱」や「通俗両国志」を表す。荻生徂徠の門人であった入江若水(1671年~1724年)はもともと「亀屋」を屋号にする蔵元でしたが、商売がうまくいかず家運は傾きました。その後詩作に励み、漢詩人として「西山樵唱」を称する。

京・宇治辺に移り住まざるを得なくなって、この地を離れる時に詠んだ歌。

その後、嵐山渡月橋の南、松尾大社の近くに隠滝棲し隠その地で没する。

清蓮寺には若水の碑があります。



清蓮寺の六斎念仏詠唱奉納

清蓮寺の「六斎念仏」は、近郊では珍しい行事です。

境内の多くの地藏尊の前で詠唱奉納されます。鉦や太鼓を打ちながら皆様に念仏を唱えられています。

富田では、清蓮寺念仏講と言っています

今から約千百年前、京洛の街々に疫病が蔓延し多数の死者が出た。当時仏教の末法思想の影響で人々が不安に陥ったその時、第六十代醍醐天皇の皇子といわれる市井の聖、空也上人が托鉢用の鉢と瓢箪を打ち鳴らし洛中の街角で「南無阿弥陀仏」を唱え人々の不安を取り除いた。この鉢叩き念仏が六斎念仏踊りの起源とされている。

